

設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 平成30年 3月10日
(65号)



[事務局] 〒648-0094
橋本市三石台4-1-15
TEL 0736-38-3669
FAX 0736-38-3680
発行 學塾・中之島事務局

人間学講座
第66講

「禅の教えに学ぶ」

横田南嶺老師



■坂村真民先生とのご縁

大乘寺河野宗寛老師はあまり知られてはいませんが、実は坂村真民先生と禅とを結びつける大きなきっかけとなった方です。

「禅とは心なり、誰か心と縁無き」と言われるように、禅とはお互いの心であり、その心の持ちようこそが人生を決めていくものです。では心とはなにか。古今東西、人間の心は善か悪か。仏教では、お釈迦様が難行苦行を経た結果、人間の心はみな仏の心であるとされています。仏の心とは、「あたかも母が己が独り子を命を賭けてでも守る」ような慈しみの心のことです。

真民先生の「念ずれば花開く」はお母様の言葉であります。この言葉は真民先生の原点でありましょう。

私と真民先生は直接出会うということが叶いませんでした。昭和五六年、私が高校二年生のときに出合ったご著書『生きていく力がなくなる時』に衝撃を受けました。感銘を受けた私は真民先生に手紙を書き、お返事や色紙を送っていたいたり、詩誌を送っていたりしては感想を書く、というやりとりを続けさせていただいておりました。大学卒業後は修行に専念しており、ご縁も途絶えておりましたが、三五歳のときに円覚寺の住職になったときに、真民先生に恩返しをしたいと思い、お寺の掲示板に毎月一つ先生の詩を書き始めました。そのようなご縁が繋がって、このたび致知出版社より『坂村真民詩集一〇〇選』を出すことにもなりました。

■教員時代

母への思い、これは真民先生の生涯を貫く思いです。戦前は朝鮮で教員をし、戦後引き上げて命からがら日本に戻ってきます。そこで、母の恩に報いるために、母のような子を育てたいという思

いから女学校を創設した山下亀三郎先生の話を聴き、その考えに共鳴した真民先生はその学校のある四国に移られたのでした。ご縁というものは不思議なもので、自分の気づかないうちに網の目のように張り巡らされているようです。実はこの山下亀三郎は円覚寺に墓があり、檀家なのでした。あとで分かったことですがこの方のご子息とも私はご縁があり、全く知らなかったところで既にご縁は結ばれていたのです。すべては目に見えない糸で結ばれており、それに気づくかどうかということに改めて気づかされたことでした。

四国に移られた真民先生は四一歳のときからの六年間、臨済宗大乘寺に参禅されています。

「地蔵菩薩さま／あなたは左手に宝珠を持ち／右手に長い錫杖を握り／そして千葉の青蓮華に／はだしで立つておられる／わたしはあなたのそんなお姿に／お会いする喜びで／この禅堂に坐りに来るのです（後略「地蔵菩薩さま」）」

真民先生は夜明け前の暗いうちからお堂に座り、そのあと学校に行っておられたのでしょう。

■河野宗寛老師と真民先生

真民先生の禅の師匠となった河野宗寛老師は、九州大分生まれ、岐阜、京都の修行を経て大乘寺に招かれ老師となられました。その後戦争などの混乱のなかで、満州国へ行き、坐禅の指導にあたります。敗戦を迎えた昭和二〇年、親の無い子どもたちが町にあふれました。何とかしなければと思った老師は、急遽坐禅堂を孤児院・慈眼堂に建て替えたのです。そして次々子どもたちを受け入れました。

「戦に敗れし日より憂きことは／親のなき子らさまよい歩く」

「今日よりは親なき子らの親となり／厳しき冬を守りこすべし」

敗戦後、自分の身よりも孤児となった子らを思い、満州の厳しい寒さの中で、この子どもたちの親となろうという決意を老師は詠んでおられます。

「入りし日は笑みもせざりし子供らも／われに

より添い戯れにける」

慈眼堂の開園式を昭和二〇年十一月に開きました。

その際に参列をした人々が子どもたちの神妙な様

に、よく馴れたものだと感じますが、老師はそれを喜びません。なぜなら、

「この子達は笑わないのではなく、不安におびえて騒ぐことも笑うこともできないのだ」と。

そして、老師はその孤児三〇〇人を連れて日本に帰ってきます。

「親のなき子等を伴ひ荒海を／渡り帰らんこの荒海を」



ご自分の命を賭けて子どもたちを守り、日本に帰ってこられたのです。

たくさんのお歌を詠み、このように慈しみの深い河野宗寛老師であつたのですから、真民先生はこの方に参禅をしようと思われたのでしょう。

真民先生は『参禅録』にこう記しておられます。「何の為の参禅か。己のためにか、人のためにか。不惑四十を越えて、果たしてきびしい修練に耐えられるか。私は今、自分が参禅によって、えらくなろうなどとはつゆ思っていない。ただ生きる力が欲しい。その力から湧き出る詩によって、又一人でも力づけしてゆくことが出来ればとただそれのみ念じている」。

真民先生は自分が何かになりたい、というのではなく、参禅により得る生きる力により湧いて出る詩によって、一人でも多くの人の生きる力を望んでおられたのです。

(抄録 中川千都子)

《グループ討議》

□ 講師 横田南嶺 老師

「禅の教えに学ぶ」

□ 進行 小南昭雄 塾生

【Aグループ】

① 母から学んだことが原点

↓ それを貫く

② 自然を感じ学ぶ

③ 命がけの愛を受け、それを返していく

【Bグループ】

① 念ずれば花ひらく ↓ 母が命

がけで子を育て守る こと

② 縁は、真心を持っている人こそ縁がひらける

③ 母から学んだ慈しみの心

【Cグループ】

① 母の愛は身近にある

② 感動の波紋

③ 周りの人たちが生かされて今がある

【Dグループ】

① お釈迦様の詩

② 究極は命がけでやったものだけが残っていく

③ 美しい姿 ↓ 一途なもの。犠牲になってなにかをする姿

【Aグループ】

① いちばんは母の心遣い。慈しみの心。労りの心。

② 生きていく力がなくなるときがある。逆に力強いものがほしい

③ 命がけ



《読書会 Aグループ》

・指導 近藤宏枝 塾生

・テキスト 『森信三先生 一語一会』

・進行 北嶋紀子 塾生

二月五日

いやしくも人間と生まれて、多少とも生き甲斐のあるような人生を送るには、自分が天から受けた一切を出し尽くして、たとえささやかなりとも、国家社会のために貢献するところがなくてはならない。

二月十四日

家庭のもつ二つの大きな任務。(一)子どもたちにとつては、春の陽光の射している苗床ともいえましよう。(二)家族全員にとつて荒天の海の避難港のようなもの。心の癒やしと寛ぎの場。

二月十六日

いちばんやりやすい無償の行為は紙屑拾いでしょ。うね。少なくともわたくしの場合にはそうです。つまり紙屑拾いだけは誰からもホメめられもせず報いられないものだからです。

二月二十四日

物事は一応八〇点級の出来映えでよいから、絶対に期限に遅れないこと、これ世に処する一大要訣と知るべし。

二月二十五日

人間として最も意義深い生活は、各自がそれぞれ分に応じて報恩と奉仕の生活に入ることによって開かれる。



《読書会 Bグループ》

・指導 中川千都子 副塾頭

・テキスト 『あるがとうございします』

・進行 大西由香 塾生

「幸せの扉を開く鍵」は、皆の手に握りしめられているのです。それではその秘訣・鍵とは何でしょうか？それは「言葉です」。幸せになりたければ、「ああ幸せ！」「幸せです！」「無限の幸せでいっぱい！」……というように、幸せという言葉ができるだけ沢山、断定的に使うことです。

生き甲斐のある人生を歩むたまには、真理の言葉を駆使して、本心の自分を呼び出し、本心の自覚を深め、本心の自分をしっかりと生きることです。

何ごとを始めるにも、先ず一番にしなければならぬことは、業想念の心を捨てて、本心の自分に帰ることなのです。本心の自分に帰ってから、何でもしてゆけば良いのです。これが本当の幸せをつかむための、一番の近道なのです。



「人生の宝物」

西中 務先生

2月号より続く

■善を積む生き方

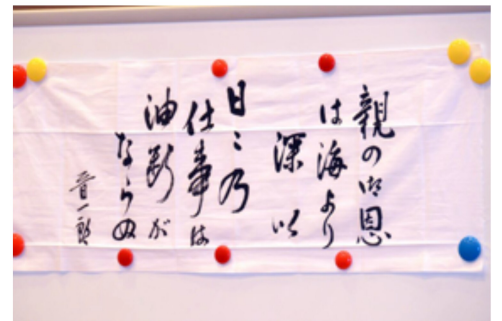
「積善の家には必ず余慶有り。積不善の家には必ず余殃(よおう)有り」善を積む家には必ず喜びがあり、そして「積悪」ではなく、「積不善」つまり善いことを積まないことへの戒めの言葉があります。鍵山秀三郎先生は「人間は大なり小なり心の傷を持っている。その傷を癒してくれるのは、人間の温もり以外にはない。私はその実践として掃除をしているのです。できるだけ人を喜ばせることを心がけています」と仰っています。



善い話を聴くだけなら、善いことを積んでいるとはいえない。だからこそ、人に喜びを与え、人のお役に立つことを実際に、行っていきたいと思えます。人に喜びを与えること、人を喜ばせる行動は、気をつけられなくてはなりません。例えば、皆の使うトイレでの洗面台や小便器での汚れを紙で拭いたり、人の履物を揃えたり、また廊下の小さなゴミなどを拾うなどは、常に心がけるようにしています。そして殊に、人間の實力は、ハガキを何枚出すかに表れると思います。人の不幸は友達をいかに持っているかです。

致知出版の藤尾社長が一流の人の四条件として、①情熱がある。②会った人を味方にする。③苦労を顔に出さない。④親祖先を敬う。と仰っていましたが、特に②会った人を味方にするためには、ハガキです。

私は今日会った人には明日ハガキが届くよう出すようにしています。たった一枚のハガキ、たった一言の言葉が、人に喜びを与え、人を励ましたり慰めたりする。これほど意義あることはなかなかないのではないのでしょうか。ハガキを書くということは、まさにいのちの呼応と言えましょう。



弊塾の前身「天分塾」から一方ならぬお世話と多くの学びを戴きました西中務先生が二月一日七五歳で逝去されました。生前弊塾最期のご講話を戴いた抄録を先月にひき続き後半を掲載致しました。(第一期平成25年5月) ※「偲ぶ会」が三月二十七日(正午から2時30分)会場 大阪弁護士会館(2階ホール)に於いて執り行われます。

《予告》郊外学習日程

■日程 5月26日(土曜)

■行き先 本居宣長記念館

三重県松阪市殿町一五三六〇七

■カリキュラム

■本居宣長記念館 館内見学

■講話 吉田悦之 館長

■鈴屋 本居宣長旧宅(国特別史跡指定)

本居宣長

18世紀最大の日本古典研究家。伊勢国松坂(三重県松阪市)の人。木綿商の家に生まれるが、医者となる。医業の傍ら『源氏物語』などことばや日本古典を講義し、また現存する日本最古の歴史書『古事記』を研究し、35年をかけて『古事記伝』44巻を執筆する。主著は他に『源氏物語玉の小櫛』『玉勝間』『うひ山ふみ』『秘本玉くしげ』『菅笠日記』など。鈴と山桜をこよなく愛し、書齋を「鈴屋」と呼び、また山室山にある奥墓には山桜が植えられている。

行程 大型チャーターバス
難波(9:00発)～記念館(11:30着)～昼食～
スケジュール消化～帰路・難波(18:00着)
※ 詳細は、4月に案内します!!



《お薦め書籍》

『いのち ころころ』

横田南嶺 著



出版 致知出版社
 頒価 一〇〇円(税別)
 ISBN-13 978-4-681-52651-0

ワンテーマ約250字。横田南嶺老師が檀信徒へ書き送った、76の「禪の生き方」。

明日はどうなるかわからないけれど、今日一日笑顔で暮らすことは、努力すればできることではないでしょうか。

観音様はどこか遠くにいらっしゃるのではありません。私たちが日々の生活の中で、他人を思いやる心、そこそが観音様です。(二部内容抜粋)
 海のように広い心で生きるには。はがきに託した76の「お寺からの教え」が綴られています。

《先哲に学ぶ生き方》

森信三 先生

「報 謝」

人間は職業に対する報謝として、後進のために実践記録を残すこと。

この世への報謝として「自伝」を書くこと。
 そして余生を奉仕に生きること

この三つは、人間としての最低の基本線で
 どうしてもこれだけはやり抜かねばならない。

森信三

「運命を創る一〇〇の金言」より

《人間学塾・中之島》

■ 基本カリキュラム

*日時 4月14日(第二土曜)

*場所 大阪大学中之島センター

10F 佐治敬三ホール

*講師 山下智茂 先生

「人生耐えて勝つ」

一九四五年石川県生まれ。駒澤大学卒業後、星稜高等学校野球部監督に就任。高校野球に38年間携わる。「人間形成の野球学」と銘打ち野球を一つの学問と捉え「心の教育」を主体とした指導方針で、日本一のマナーで全国制覇を目標に精進。現在、甲子園塾長として、若手の高校野球指導者を育成など、高校野球の発展を目的とした活動や、海外でも発展途上国の野球指導を行っている。

■ 「読書感想文」刊行

第六期読書感想文『文集』第6集が、みなさま方のご協力により、刊行致しました。

ありがとうございます。今期原稿の提出を頂けなかった皆様には、「読むことで一歩前進」「書くことで三歩前進」を基軸に今後も進めてまいりますの、学の一環としてご理解頂きまして、次期のご寄稿をお願い致します。



■ 第七期 登壇講師選択アンケート実施について、ご協力頂きありがとうございます。

現在、皆様より回答くださいました、再登壇希望講師、新希望講師へ登壇への交渉に努めています。4月には皆様にご披露できるよう詰め作業を致していますので、七期への継続お待ちしております。

【掃除に学ぶ会】

大阪掃除に学ぶ会 平成30年4月度例会のご案内

4月度の「月例会」は、今年で4回目となる「大阪天満宮」様をお借りしてのトイレ&境内のお掃除です。神聖な神社をお掃除させてもらえるだけでも有難いことですが、年を重ねることで神社の職員様からも信頼され、お掃除を任されることはこの上なく光栄です。「私」よりも「公」を優先するという日本人が本来持っている心を呼び起こして多くの仲間とお掃除に取り組みたく存じます。多数のご参加を心よりお待ちしております。

○ *場所 大阪天満宮 大阪市北区天神橋2-1-8

*日時 4月8日(日)

*受付 午前 6時20分

*開会式 6時40分

*お掃除実習 6時50分

*閉会式 8時20分

終了後すぐに希望者は、本殿正式参拝をします。
 (当日連絡先 下 正晴 ○九〇 八九三七)

認定 NPO 法人 日本を美しくする会 大阪掃除に学ぶ会主催

大阪天満宮お掃除

平成30年 4月8日(日)

大阪天満宮 大阪市北区天神橋2-1-8
 (主なお掃除場所)
 境内・トイレ周辺

大阪掃除に学ぶ会
 代表世話人 下正晴
 事務局 奥月堂 岡田ゼン
 電話072-9223-2235

両天満行 (両方を着て行きます)
 当日の緊急連絡先
 下-090-8837-0268
 江川-090-6501-3983

8:40 開会式
 8:50 お掃除実習
 8:20 閉会式
 8:30 希望者のみ

本殿で正式参拝をします
 お掃除実習参加費500円 境内に駐車場があります
 (掃除道具の購入費に充てます) (6:00~駐車可)
 今回「送迎なし」です

お名前	ご住所 電話 メール	参加回数	「送迎車」です
〒	電話 FAX		
〒	メールアドレス FAX		

申し込み: FAX 又はメールをお願いします
 FAX 072-924-1668/osaka.souji@gmail.com